

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2019
4.1

37号

巻頭言……………1 / エコサロン公開講座 秩父往還道志るべ……………2-7

和名倉山森づくり報告……………8-9 / 年間スケジュール……………裏表紙

秩父往還の起点を訪ねて

理事長 小林 公彦

今では秩父を通る国道140号線を車で熊谷から雁坂トンネルを通って山梨へ3時間弱あれば抜けることができます。昨年、皆野から秩父バイパスもでき、ますます便利になっています。

秩父は札所巡り、神社めぐりのほか、春は花、夏は溪流、秋は紅葉、冬は氷柱など、四季を通じて自然を楽しむため訪れる方が多くなっているようです。

江戸時代、秩父地域は札所巡りや神社への参拝者が多かったと言われていますが、当時の秩父への道はどのようなものでしょうか。熊谷から秩父を通り、栃本関所を抜け、雁坂道を通って甲州に抜けるのに何日ぐらいかかったのでしょうか。

昔のロマンを解き明かすため、昨年12月の公開講座に「埼玉県立自然と民俗の博物館」の杉山正司主任専門員をお招きして、秩父への道、秩父往還についてお話を伺うことができました。

杉山さんのお話を聞いて、秩父へのメインの道、熊谷通・江戸道は巡礼の道として、また公用の道として大きな役割があったこと、川越道、吾野道・名栗道は江戸から最短ということで巡礼の道とし

て多く利用されていたこと、吾野道・上州道は絹の道、シルクロードとしての役割があったこと、そして雁坂道・甲州道は商人が往来した道としての役割など、秩父への道の役割が多岐に亘っていたことが分かりました。

講演を聞いた後、秩父往還の起点になる熊谷市石原の道標を見たことがないので、道標を訪ねました。秩父往還道志るべは、東京方面から国道17号線旧道を進み、熊谷市街の八木橋というデパートを通過し、少し行ったところの石原の「かめの道公園」内にありました。

写真で見ると大きさが分からないですが、三つあるうち、中央の道標は約2m、左右は1m65cmほどある立派な道志るべでした。彫りも大きくはつきりしており、分かりやすく、正に昔の案内板としての役割は大きかったと思われまふ。杉山さんのお話いただいた内容が道志るべには、はつきり彫られていました。道標の隣に案内碑があり、以前50mほど違う場所にあったのを、平成16年9月に現在地に移設したことが分かります。その他に、道志るべを創建した世話人の一人に血洗島洪沢宗助という名前が記されています。

した。この方は有名な洪沢栄一の本家の祖父に当たる方でした。公園内にひっそりとあり、見に行こうと思つて訪ねなければ、地味で分からないと思います。

「かめの道公園」は、東武鉄道熊谷線（昭和18年開業、昭和58年に廃線）が走っていた敷地跡につくられた公園で、廃止前の列車が愛称「カメ号」と呼ばれていたことから、「かめの道公園」として名づけられて、市民に親しまれている公園のようです。

江戸時代、秩父地域が大層栄えていたこと、秩父往還が公用の道、絹を中心とした商業の道、江戸の人々の巡礼の道としての賑わいの歴史が現在の秩父に繋がってきているような気がいたします。

江戸から明治の頃、秩父の養蚕やセメントそして林業などが隆盛であった歴史も、秩父往還によって人や物の往来が盛んであったことが、江戸・東京の経済に大きな影響を与えていたと思います。

秩父に多くの方にきていただき、秩父の自然の素晴らしさを体感していただけるよう、森づくり整備をすすめて、自然豊かな秩父に少しでも協力できればと思つています。

公開講座（平成三十年十二月九日）

秩父往還道志るべ



講師 埼玉県立歴史と民俗の博物館
主任専門員兼学芸員

杉山 正司

街道と宿場の意義

「秩父往還道志るべ」というと、「ん？何かなあ」と思うかもしれません。

街道というと旅のイメージが強いと思います。街道の意義は、①移動手段であること、②宿場と宿場をつなぐ街道を通じて物流の移動など交易的な経済・商業活動が行われ、そこに人の交流が生まれます。③もう一つ重要なのは情報システムです。現在の様なインターネット、テレビ、ラジオなどはありません。街道を通して馬を走らせるとか、人足を走らせることが最も早い情報の伝達手段でした。街道は情報システムとして重要な意味を持っています。そして④軍事行動として街道は重要な存在でした。大軍を移動させるためには街道を通らざるを得ません。③情報システムと④軍事行動は一般庶民には関係ないのですが、江戸幕府の交通政策の中でもっとも重要な主眼テーマであったのです。

一般庶民には、「旅」というイメージが一番でした。江戸幕府としては二の次で、関ヶ原合戦の直後、街道の整備が最大の課題でした。大坂には豊臣秀頼、反徳川勢力がいて第二の関ヶ原が起きるかもしれせん。実際に大坂冬の陣、夏の陣が起きる訳ですが、大坂の情報をいかに入手するかが大事で、そのため街道の整備が行われたのです。ですから最初に東海道、次いで中山道の整備が行われました。情報をキャッチし、いち早く軍事行動を起こすかが重要だったのです。秩父往還は①移動手段と②交易などの経済・商業活動の方が強いと思います。

また、宿場の意義は①宿泊する機能を提供する場所、旅人が休む場所、③情報システムと④軍事行動の意味もあります。そして②交易などの経済・商業活動の場としての機能があり、そこに人が集まります。宿場では多くの市が開かれ、周辺の村々の農産物が集まってきます。街道と宿場の整備は、領主の領国支配

の重要な政策の一つでした。経済活動の発展により人々がいなくなるのを防ぐことが幕府にとっても重要でした。五街道の整備は、大変重要だったのです。東海道、中山道、甲州道中、日光道中、奥州道中が五街道です。本を読むと、人偏が付いている中や山を書く仲山道や中仙道というのがありますが、正式には「中山道」と書きます。日光街道、奥州街道と言いますが、日光も奥州とも海沿いを通りませんので、「日光道中」、「奥州道中」、「甲州道中」と定められました。

脇往還

さて、秩父往還は五街道に入っていないません。秩父往還には熊谷から入って行く道、五日市街道から入って行く道、勝沼、塩山辺りから入る道など色々な道があります。脇往還とは、五街道中心とした幕府道中奉行所（今の国土交通省）が管轄した以外の主要街道のことです。大名領で独自に街道を整備した道です。五街

道以外にも並木や一里塚、宿場などの整備も行われました。埼玉県域では、秩父往還、八王子千人同心道（別名日光脇往還）、川越街道、赤山街道などがあります。

日光市から鶴ヶ島にかけて松並木が残っています。八王子千人同心道の名残りです。八王子千人同心道は吹上から行田を抜けて、館林、壬生、日光の方へ向かって行く道です。八王子千人同心道とはいわゆる旧武田の家臣です。小仏峠を超えた所に関所があり、江戸時代になって関所の先、八王子に旧武田の家臣を住まわせた。万一旧武田の家臣が集まって徳川の江戸を攻めるのを防ぐため、徳川に下った旧武田の家臣たちを八王子に住まわせ、旧武田家の反乱に対して旧武田の家臣同士を戦わせて防ごうと考えたのです。

しかし、時代が経つとそんな心配はいらなくなりました。八王子千人同心らは何もする事がないので、半農半で生計を立てていました。幕府は日光東照宮を造り、暇になった千人

同心に東照宮の火の番、消防隊の役目を命じたのです。八王子から日光まで消防の為に通わせ、三か月ないし半年で交代するのですが、彼らが八王子から日光に向かう道を八王子千人同心道と言ったのです。これが日光脇往還です。

秩父往還の名称・目的

秩父往還は、五街道のように正式な名前は決まっていません。資料や古文書をみてもバラバラです。秩父甲州往還、甲州裏街道など様々です。また、ルートと区間によって名称が異なります。秩父市にある秩父大宮が最終目的地ですが、そこへ繋がる道がいくつもあります。

代表的な道が熊谷通（熊谷道）・江戸道です。熊谷から今の秩父鉄道、国道140号線に沿った道です。これがメイン通りです。あとは定峰峠、粥仁田峠を越えて小川から川越へ行く川越道。正丸峠越えの道は吾野道・江戸道です。これは峠越えがあるのやや難所ですが、江戸から秩父に入る最も短い道です。江戸の人達が秩父札所巡礼のため川越道、吾野道をよく利用していたと言われています。秩父から甲州へ向かって雁坂峠を越える雁坂道・甲州道。上

州から秩父大宮に向かって来る絹の道と言われている上州道。これらを総称して秩父往還と言います。

秩父往還の目的ですが、メインの熊谷通（熊谷道）は公用の道としての役割が大きかった。行田の忍藩の領域は、国道140号線に沿ってずっと西の秩父の方へ伸びていました。秩父大宮に忍出張所である代官所を置いた。代官所支配の執務の往来に利用したのが熊谷通です。もう一つ熊谷通は、平坦でポピュラーな道だったので巡礼の道として利用しました。

川越通・吾野通（名栗通）は峠越えになりますが、巡礼の道として江戸時代に栄えました。元は33ヶ寺であつたが西国・坂東・秩父を合わせて100ヶ寺とするために秩父に1ヶ寺増えて34ヶ寺となりました。江戸の札所巡礼の盛行により、利用しやすくするために当初の番付の順番が変わりました。江戸に近く、関所もなく非常に人気がありました。

吾野道、上州道は、上州の絹、秩父の絹を八王子に持って行き、幕末明治になると横浜へ持って行く道です。さらに甲州から武州の間を往来する商人が通った道が、雁坂

道、甲州道です。

熊谷道

熊谷通のスタートは、国道17号線沿いの石原というところです。石原から国道140号線にほぼ沿って、秩父鉄道を縫うように通っていく道が熊谷通です。その先は寄居に入りますが、波久礼の部分で一部山に入りますが、殆ど今の国道140号線と変わらない道です。寄居の先で一部峠道に入る道があります。鉢形城の脇をぬけて釜伏峠を越えて行く道で、途中関所の跡もあり、今も碑が建っています。釜伏神社の人が関所を担っていたと言われています。その先の平草には、一里塚が設けられています。山道を越えて行くと粥仁田峠を越える川越道と繋がります。

さて熊谷の石原には、道標があります。現在は道の拡幅で移されています。いまいましたが、道標がそのまま残っています。写真右側の道標は、秩父三山の一番手前の「宝登山道」への道標です。「是より八里十五丁、弘化四年（1847年）」と書かれています。真ん中に大きな道標があり、「秩父観音順禮道」、秩父34箇所の札所の為です。「二はん四万部寺へたいらみち十一里、安政五年

（1858年）」と書かれています。他の道は起伏があるのですが熊谷通に関しては平らであるという事が分かります。左の道標には「ちちぶ道」、「志まぶへ十一里 明和三年（1766年）」と書かれています。地元石原村が建てたものです。熊谷通が宝登山信仰や秩父札所34ヶ所への道として利用されたことが分かります。



熊谷通は忍藩の役人が通るための道ですが、庶民にとっては秩父三山と秩父観音巡礼として使われた道で

間違いないわけです。宝登山神社、秩父神社、三峰神社へは中世から古い信仰があつて、そこへお参りする事は一つの目的だったのです。

秩父札所は室町時代の番付が残つていて、成立したことが分かります。

江戸時代には、関所を超えない庶民信仰と行楽（娯楽）要素が魅力となり、江戸中期には4〜5万人の参詣者があつたそうです。関所を超える事は大変嫌がられ、特に女性はそうだった。男性は関所改めと言つてもほとんどノーチェックで関所手形を持つていても見ないことが多かつた。女性は「入り鉄炮に出女」ということで、人質に取つた外様大名の奥方が江戸から出て行つてはいけないう事、特に女性に対して厳しかった。そういった女性たちが、関所を越えないで行ける秩父三山と秩父観音巡礼は、庶民の身近な楽しみとして非常に人気があり、人の往来が多かつたのです。札所案内図として、墨刷りで正丸峠や秩父地域の絵図が描かれた冊子もいろいろ作られました。

が、山中に向かう時に火事に遭う。その時に神犬オオカミが出て来て火を止めたというので火止山（ほとささん）といい、やがて縁起のいい宝登山に登るといふ字があてられて宝登山になった。明治になって神仏分離という事になったのですが、現在玉泉寺というお寺が、宝登山神社と並んであります。弘法大師の霊山として空円という人が開山した。どちらも残つているという事で特徴的です。信仰として神奈備山、火を止める宝登山は火防盗難除けとして北関東から江戸にかけて非常に信仰があつたと言われています。

長瀬という名勝は、いつなつたのか。江戸時代の旅行記を読んでも長瀬は出て来ない。今長瀬は天下の景勝地として観光客も多い。明治になつてからナウマンが、岩畳を見て地質学的に地球の窓と言つて一躍注目を浴びて長瀬は有名になりました。古い鉄道地図には秩父鉄道の駅は宝登山駅となつていますが、のちに長瀬駅に変更したのです。

長瀬を過ぎ、秩父道を行きますと大野原の手に聖神社と和銅遺跡があります。教科書にも和銅開珞が出てきます。近年和銅開珞より古いと言われている富本銭が出て影が薄くなつていますが、和銅遺跡はパワースポットになっていきます。聖神社は国道140号から直ぐに入ったところにあつて黄色い幟があり、参拝に来られた人は金が溜まるという事で宝くじを持つて行つて拜んでもらう。聖神社から和銅開珞の碑まで少し歩きますが、非常に大きなモニュメントや採掘の跡も残つています。和銅開珞は慶雲五年に和銅が産出し、朝廷に献上された。採掘された露天掘りの跡が、埼玉県指定旧跡になっていきます。

秩父往還で和銅遺跡を過ぎて大野原の手に、高麗門と書いて「こまり門」という立派な門があります。上には大屋根が掛かつている旧家です。この門を開門すると災難があるので「こまり門」と言われています。家伝では、幕府の役人が来た時にだけ開ける門だと言われています。実態として幕府の役人は早々来ませんので、秩父の代官所に行く忍藩の役人がここで休んだのではないかと思われまふ。こまり門は、この街道の見どころです。寛文三年（1663年）江戸の初めに建てられたもので、秩父市の指定文化財です。

秩父神社は、旧国幣小社で秩父三山の中心になります。秩父神社は八意思兼命（ごころおもいかねのみこと）知夫彦命（ちちぶひこのみこと）天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）秩父宮雍仁親王（ちちぶのみややすひとしんのう）が祭神として祀られている。第十代崇神天皇の時代に、知知夫国の初代国造に任命された八意思兼命の十世の子孫である知知夫彦命が、祖神をお祀りしたことに始まるとされています。

特に秩父夜祭は有名で、平成28年12月1日にユネスコ無形文化遺産に登録になりました。ユネスコ無形文化財は世界遺産の一部です。国の重要無形民俗文化財でもあります。京都の祇園祭、飛騨の高山祭と共に日本三大曳山祭りとして有名です。寛文年間すでに始まつたと言われていますが、実際には記録には残っていない。

秩父大宮では、秩父絹大市（きぬのたかまち）として秩父で大きな絹の取引が行われました。秩父往還の全ての道は、この市に大きな役割を果たしていると思つていますが、秩父神社の妙見様（女神）、武甲山の龍神様（男神）が一年に一度、12月3日に逢うという祭りです。二台の笠鉦と四台の屋台の引き回しがあり、非常に凄い祭りです。秩父の忍

藩代官所跡は、今の埼玉県の役所
 になっていてところがあり、熊谷通
 の最終的な目的地です。

寛文三年（1663年）、秩父夜
 祭が始まった頃、つまりこまり門が
 出来た頃ですけれど、鉢形領ととも
 に秩父郡内27カ村、その後22カ村に
 なりますが、忍藩領となります。忍
 藩領はいわゆる東西に長い支配地
 で、行田にあつて東は所領がなく殆
 ど西の方だった。その為秩父に代官
 所を置いて秩父を支配した訳です。
 代官は二名以上で、交代で勤務し、
 非番の時は忍城に戻りました。郡奉
 行や勘定奉行の支配下ということ
 で、地方支配を行っていました。他
 領の代官と区別するために「秩父代
 官」「秩父領御懸御代官」とい名称
 でした。

ことが分かります。

秩父絹大市（きぬのたかまち）と
 して江戸の初めから秩父地方には絹
 の生産が盛んでした。大宮郷に一・
 六の六斎市といつて、一と六の付く
 日に市が開かれました。その周辺の
 長瀬の本野上村は二と七、秩父市に
 合併しましたけれど下吉田村では三
 と八、小鹿野では五と十に絹市開か
 れていた。商人は大宮郷から、二に
 本野上、三で下吉田、五で小鹿野に
 行き、また秩父大宮に戻るとい
 いわゆる絹の市場圏を形成してい
 た。そういった市が開かれていたの
 が大きな特徴です。この他に寄居、
 川越、青梅、八王子で大きな市が開
 かれ、この秩父大宮から通る道をシ
 ルクロードと言われた訳です。

武甲山は、石灰岩の山で大分削ら
 れてしまつて、本当の頂上にはセメ
 ント会社の塀があつて行けません。
 秩父の象徴、シンボルとして、武甲
 山は名所であり巡礼の地図にも描か
 れています。日本武尊が自ら甲をこ
 の山の岩室に奉納したという伝説
 が、元禄時代の頃から定着していま
 した。それ程古くなく後付けされた
 可能性はあります。秩父神社の神奈
 備山、武甲山には男神がいるとして
 崇められた。明治33年の測量では標
 高は1,336mを記録したが、山頂
 付近も採掘が進められたため三角点
 が移転させられ、昭和52年には標高
 が1,295mとされた。平成14年に
 改めて調査したところ、標高1,30
 4mと確認されました。山頂には、
 武甲山御嶽神社が鎮座されていま
 す。『秩父日記』（県立熊谷図書館
 蔵）に武甲山は象徴として描かれて
 います。木がうっそうとして生い茂
 っている。『三峰山紀行書』（県立
 熊谷図書館蔵）にも武甲山が描かれ
 ていて、尖った山の形として描かれ
 ています。

また熊谷通には、バイパス的な峠
 道があります。寄居の街中から川を
 渡つて鉢形城を通つて峠道を上がつ
 て行くと釜伏峠に到る道です。秩父
 へ向かう平らな道に比べれば起伏が
 あるが短いという事で、忍藩の役人
 はこちらを通つたのではないかと思
 われます。川を迂回しないので短距
 離で行けるわけです。峠道の特徴で
 すけれども道幅は二間程度と狭い。
 秩父往還は三間、広い所では四間あ
 ります。馬に乗つてやつとすれ違
 いが出来るぐらいの道幅しかない。峠
 道には宿場はないので、村々に馬を
 利用しました。

秩父巡礼の人達も少しでも早く着
 きたいという思いもありますので、
 途中から大野原、三沢、定峰峠、粥
 仁田峠、釜伏峠を越えて小川、松
 山、川越を結ぶ川越道も利用しまし
 た。参詣巡礼者が利用するために木
 賃宿や茶店が設けられていたのでは
 ないかと思われます。釜山神社が釜
 伏峠の麓にはあり、関所を設けてい
 ました。通行人の関所改めをする
 といったものではなく、旅人の安全を
 見守る為にあつたのではないかと
 言われています。実際に手形が残つて
 いる訳ではないので、不審者をチェ
 ックするぐらいのものであつた。釜
 山神社の直ぐ脇で社家が管理し、通
 行税を取つていたといわれます。明
 治ぐらいまでに10畳ぐらいの建物が
 あり、関所道具として使用された搦
 め手長刀が釜伏神社に残つていま
 す。今は立て札や関所跡の案内板が
 残っています。

吾野道・甲州道

吾野道は所沢、入間を越えて、二手
 に分かれます。飯能から下名栗、妻
 坂峠を越えて行く道と、国道299号線
 に沿つたもので吾野を越えて足腰神
 仏で知られている子の権現、正丸峠
 を越えて行く道があります。江戸か
 ら秩父に入るには距離が短いとい

事で、秩父札所巡礼の時も川越道と共にこの道は使われていました。妻坂峠を越える方は、距離が長いのですけれど正丸峠よりは通りやすかったですと言われており、武甲山に続く巡礼の道です。

江戸の商人たちは、この道を通って秩父を抜けて雁坂越えをしたようです。秩父大宮を通って、国道140号線に沿って、橋立の鍾乳洞、三峰口、大達原、落合、そして栃本、雁坂峠へと続く道が甲州道です。今は彩甲斐街道として、トンネルで山梨県側へ抜けています。江戸から甲州へ抜ける道としては、最短距離として結構使われていたようです。甲州道中の裏街道ということで甲州裏街道、秩父甲州街道とも呼ばれています。

人気があった。名栗通は、妻坂峠を通り武甲山のすぐ脇を通る道で歩きやすいと言われますが、2里ほど遠距離だという事で敬遠される事もあったようです。

甲州道には、栃本関所がありました。甲州道中の小仏関所は厳しいということ、何か心配事のある人は秩父の方を通ったと言われています。武州と甲州を結ぶ商人の往来はあったがそれ程多くはなかった。甲斐の善光寺、秩父札所巡りだけでなく、長野の善光寺信仰をお参りする人たちもよく通ったようです。

昔は一生に一度はお伊勢参りをしたいということで、往路は東海道を通って行った。その時必ず信州の善光寺参りをしたいということで、帰路は中山道を通って善光寺をお参りしています。お伊勢参りに行けない人は、甲斐の善光寺にお参りしています。甲斐善光寺に往来する時に使ったのが、この甲州道です。雁坂峠は、険峻な峠であるため武田信玄も雁坂峠から武州に入っていません。一旦、上州に入ってから武州の方へ南下しています。甲州道の贄川宿は、秩父鉄道の三峰口駅の川を挟んだ対岸にあり国道140号線より一段上がった所で宿場の景観がよく残され

ています。そこから両神、小鹿野に向かう道が続いています。大きな宿場として贄川宿がありました。

その先を行きます、三峯山道となります。三峯山とは上に山を書く。

三峯神社は、左に山を書く。祭神として、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）伊弉册尊（いざなみのみこと）夫婦の尊が神様として祀られています。創建は、日本武尊が東国に遣わされた時、甲斐国（山梨）から上野国（群馬）を経て碓氷峠に向かわれる途中、三峯山に登った。尊が、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）伊弉册尊（いざなみのみこと）の二神を社に造営して祀ったのが始まりとされます。日本武尊が東国を巡幸された時、雲取山、白岩山、妙法岳の三山が高く美しく連なっていたことから「三峯山」と呼んだという由来があります。信仰ですけれど、寛文5年迄越生山本坊配下で、以後聖護院直末になり三峯山大権現となり、別当三峯山観音院高雲時平安坊として聖護院末の修験の寺だという事が分かれます。よく知られているのがオオカミ信仰です。宝登山もそうです。猪鹿・火防除けオオカミが獣害を追い払うという事です。女人禁制で忌火（いみび）の神社です。

『武蔵志』という、江戸の中頃に埼玉の名所やいろいろな出来事や、地名の地誌など謂れを書いた本がある。そこには、三峯神社はかつては繁盛すること甚だしく、贄川に泊まつて休み群集して隙もないほどであった。それほど参拝者が集まったが次第に衰微した。元禄の頃、護つていた老僧が立ち退こうとすると、雌雄のオオカミが道を塞いだので垢離（こり）の為に下山するのだ、と言うと道オオカミは道を開けた。しかし、この僧は気になって戻つてみると、神前に甲州金三分が置かれ、さつきのオオカミが奉納したことが分かった。故に下山を諦めたところ、僧の才覚もあり次第に繁盛したという伝説が残っています。

『三峯山道中絵図』に描かれているもので、三峯山絶頂の図として記されています。頂上の様子が描かれていて、多くの参拝者がいる事が分かります。仁王門から上がって行く様子が、よく描かれています。

大日向山太陽寺は強石組所在で元々は袋養寺（たいようじ）と書かれていた。臨済宗建長寺末 仏国国師が開山した。『武蔵志』の中に絵があり、新大滝之内大日向山太陽寺図としてあります。「当寺は山中に

て四方峰高 蓮の咲きたるが如故に蓮花峰と号す 寺前 谷深く本川と云流れあり 深山こと白久へ三里 三峰山へ一里半なり 世に髭僧とも女人とも呼ぶ」。『新編武蔵風土記稿』に「武州秩父郡東女人高野（寺伝） 妙見三峰大権現・諏訪明神の化身が守護。子孫繁榮、疱瘡、病氣平癒」、いわゆる天然痘病瘡など健康成就の御利益を受ける事が出来る。こう言った事が太陽寺に行けば御利益があると、江戸時代から古く言われて参詣する人が多かつた。

甲州道雁坂の方へ向かって行きますと、栃本の関所があります。戦国時代武田氏が秩父に進出した時、主要な街道であることと、武州から甲斐の国へ攻めてくるのを防ぐ為に山中氏に命じて関所を置いた。不審者のチェックをするためのものであつた。慶長19年江戸時代に入って関東代官頭伊奈忠次が、大村氏を番士に任じ幕末まで務めた。大村氏が残した古文書や『大滝村誌』の歴史編は非常に役立っています。大村氏は番士として365日一人で関所を警護しているわけですが、警備は手薄だつた。何かあつた時には突破されてしまう危険がある。寛永20年番士1名では警備が手薄ということで、その

ため旧大滝村麻生に加番所を設置しました。関所を通る人々の事前のチェック、予備審査を行いました。

手形には、関所手形と往来手形があります。関所手形は、特定の関所を通る証明書です。往来手形はいつも持っていないといけない。往来手形はパスポートに当たります。そのため旅人は、必ず往来手形を持っている。麻生加番所は、往来手形をチェックする所でした。勿論チェックされない男も持っていますが、女性には更に関所手形も持っています。麻生の加番所で往来手形を提示して、



チェックして印鑑を押ししてもらい証明してもらおう。それを持って栃本関所では、スムーズに通る事が出来る。ある意味二重のチェックで、それが麻生加番所の役割でした。

それと同じように甲州側、雁坂を越えて向こう側の川浦という所に加番所があつた。同様に川浦でチェックして印鑑をもらって、栃本関所で差し出す事で関所を通過しました。栃本、川浦、麻生の三つで一つの関所を構成していた事になる。栃本は大村氏だけでしたが、麻生は周辺の村人たちが交代で詰めてチェックをしていた。

現在関所の役宅が残っていますが文政期に二回焼失しました。現在の建物は幕末の再建と言われています。元々は平屋で造られていましたが、その後増築して、明治以降は2階建てになっています。現在は国指定史跡です。甲州道は、幅一間半ぐらいの道幅で狭い。旅人は麻生の加番所でチェックを受けて印鑑をもらい、栃本関所を通って行くという事になる。

埼玉県の関所としては栃本関所、栗橋にある中田関所、その二つの関所が特に有名ですが、栗橋の中田関所は利根川の河川敷内にあつて、址

の碑は立っていますが何も残っていません。栃本の関所は、埼玉県では関所の唯一遺構として大変貴重なものです。『新編武蔵風土記稿』に記載されている栃本関所の絵は、今と同じ塀があつて平屋の建物があり玄関は今も残っています。急峻な場所に建てたわけです。道幅も狭く、石垣の下はすぐ崖になっている場所にあつたのです。通行する人も容易ではなかつたと思います。

去年撮影に行った時には、街道歩きをしている人達が結構いらつしやいました。古道歩きがブームだという事がよく分かります。秩父往還道は「日本の道百選」に選ばれていますが、栃本関所付近は非常に風情のある道ですので、是非皆さんに歩いてみて頂きたいと思えます。

(文責 事務局)



2018年度下半期

和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

和名倉山は、64年(昭和39年)と69年(昭和44年)に山火事が発生し、多くの樹木を焼失した。その跡には成長の速いカラマツを植林するなど、山の復興が図られた。同時期、林業の衰退で山での仕事も少なくなり往来が激減し、多くのルートが2m以上のスズタケで覆われ藪の山となってしまった。

そのような和名倉山を以前のような水を育む山に還元するために、97年埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会が活動を始めた。その後、NPO法人百年の森づくりの会として事業を拡大して、00年までに失われた道の復元を行ない、01年には樹木の生長が遅いところに、和名倉山の在来種であるブナの苗を植林し始めた。植林を始めると、鹿による食害に悩まされ、植林よりも、現有樹木を守るほうが先と考え、現在は現有樹木に鹿よけネット巻く作業が主になっている。03年には旧大滝村村有林の管理小屋だった仁田小屋を改修しこの事業のベースキャンプとして使用している。この小屋は会員の力でログハウス風に作り上げられた。(なお、和名倉山は山頂が県界でない埼玉県山々における最高峰である。)

2018年度上半期

6月16・17日 第42回植林ワーク

(仁田小屋整備・植林地候補地下見)

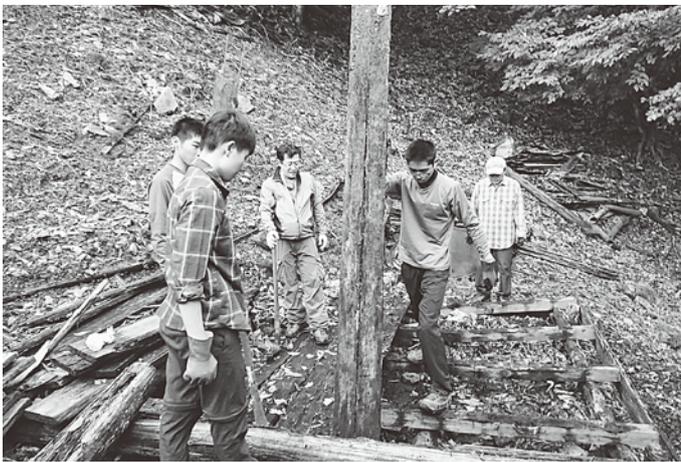
10月27・28日 第43回植林ワーク

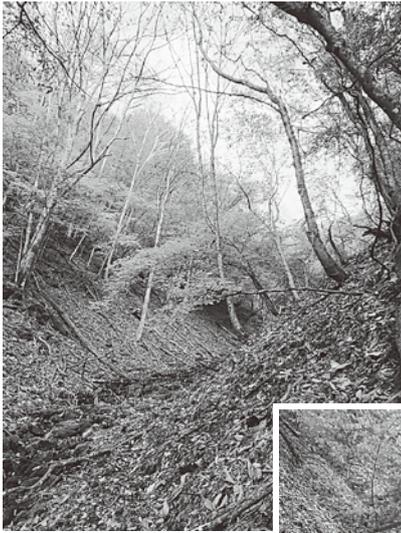
(仁田小屋および周辺整備・仁田小屋沢偵察)

今年度の下半期ワークは、参加者は7名(うちいずみ高校山岳部生3名)である。

今回のワークでは仁田小屋の整備を中心に行った。仁田小屋は林業が盛んであったところは林業の管理小屋であった。その後使われなくなり、廃墟になっていたそれを2003年に我々が改修し今は、百年の森づく

り活動の最前線のベースキャンプである。それから15年たつてさまざまに個所が傷んできている。雨ざらしになっていた玄関先のすのこと縁台が腐り危険な状態になったので撤去することにした。ここは設計上では増築して屋根の下になる計画だったが、予算と工期の関係で追加工事ができずにむき出しになってしまったのである。追加工事ができる環境が整えられれば良かったのだが、結局そうはならず、撤去することにした。





今回のワークの2日目以降天候が危ぶまれるので、主に偵察することにした。そこで、かつてはちよくちよく歩いた仁田小屋沢の偵察に入った。この沢は小屋を少し上がると伏流（水流が堆積物の下になっている状態）になっている。所々にじみ出ている水をあてにしているのか、動物の踏み跡、フンをたくさん確認できる。

仁田小屋沢は、水流がないので、魚などの生態の楽しみは期待できない。しかし、実は、結構うまい。私は惣小屋沢の源頭の水よりうまいと思っている。仁田小屋から200mほどのところにシダジイの枯れ株がある。この大きさはそのまま山の深さを感じる。この大きさの木で覆われていたとすると、さぞや豊かな森だったろう。その姿に戻るには何年かかるのだろうか。この先も沢に沿ってつめ上げれば、仁田小屋の頭に出るが、早めに切り上げるために沢の右岸を高巻くことにした。急斜面で足元が緩く、ちよつと閉口したが、犬ブナ平付近に出ることができた。



和名倉山は、いわゆる絶景ポイントがあるわけではないが、大自然が作り出した傑作であることには違いない。見方・味わい方でいかようにも映し出される。楽しみは尽きない。このワークに先立ち、三峰神社の奥にある三峰公園を偵察した。この公園はかつてあった三峰山ロープウェイの駅があったところである。ロープウェイは不具合を修理することができずに撤去することになったと聞いている。ツツジ、シヤクナゲ、カタクリなどが楽しめる場所だが、最近では来客がなく寂れている。この公園の一角に2015年6月、百年の森づくりの会が所有するブナ60本を植樹した。埼玉県による「みどり再生に取り組みむ高校生の事業」として埼玉県立いずみ高校生が植樹したものだ。そのうち半数以上が活着せず枯れてしまい今28本が残っているところだ。今年の3月にいずみ高校の独自の活動で50本のブナ(百年の森づくりの会所有)を加植する予定である。今後この地での「みどり保全・再生活動」を百年の森づくりの会の活動として提案する予定である。その折には、また皆様のご協力をいただきたいと思っています。



2019年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		苗づくり	エコサロン他
		和名倉	宝登山/大陽寺		
4月	■会報37号発行 ○4/15(月)常務理事会				
5月	●5/20(月)理事会 場所:未定	◆第44回和名倉山ワーク 日時:5/25(土)~5/26(日) 集合:8:30/西武秩父駅	◆宝登山 下刈作業 日時:5/12(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
6月	■第12回通常総会・記念講演会 日時:6/2(日)午後2時から 場所:埼玉会館4A会議室 13:30 開場 14:00~14:50 第12回通常総会 15:00~16:30 記念講演会 16:45~18:30 懇親会 ○6/9(日)常務理事会		◆宝登山下草刈作業 日時:6/9(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		◎福島県田村市植林状況調査 日時:6/30(日) 行程:未定
7月			◆宝登山下草刈作業 日時:7/7(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
8月	○8/18(日)常務理事会		◆宝登山下草刈作業 日時:8/18(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
9月					
10月	■会報38号発行 ○10/21(月)常務理事会	◆第45回和名倉山ワーク 日時:10/26(土)~27(日) 集合:8:30/西武秩父駅			
11月	●11/18(月)理事会 場所:未定				◆公開講座 日時:11/10(日) 会場:未定
12月	○12/16(月)常務理事会				

和名倉百年の森 第37号 2019年4月1日発行

発行者: NPO法人百年の森づくりの会 小林公彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL/FAX: 0480-22-3131

<http://www.100nen-forest.org> e-mail: info@100nen-forest.org